

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病（穂いもち）（防除情報第8号）	—	やや多
	紋枯病	やや多	やや多
	縞葉枯病	やや少	やや少
	トビイロウンカ（注意報第1号）	多	多
	コブノメイガ	やや少	並
	穂吸汁性カメムシ類（防除情報第9号）	やや多	やや多
大豆	ハスモンヨトウ	並	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	並	並
	輪斑病	やや多	やや多
	ハダニ類（防除情報第7号継続）	多	多
	アブラムシ類	並	並
	ハスモンヨトウ	少	やや少
アスパラガス	アザミウマ類	やや多	やや多
かんきつ	かいよう病	少	少
	黒点病	やや少	やや少
	ミカンハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
びわ	がんしゅ病	少	少
	ナシヒメシンクイ	やや少	並
果樹共通	カメムシ類（技術情報第3号）	並	並
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	やや多	やや多
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病（穂いもち）

平成25年8月19日付け**病虫害発生予察防除情報第8号**による。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（89筆）の結果、発病株率は2.4%（1.0%）、発

生圃場率は27.0%（18.4%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は67.0%（4.8%）であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（89筆）の結果、発病株率は0.0%（0.3%）、発生圃場率は9.0%（26.6%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は0.3%（0.0%）であった。

ウ 8月上旬の巡回調査（89筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.4頭（0.3頭）、発生圃場率は64.0%（60.2%）であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、普通期、無防除）調査の結果、株当たり虫数は1.3頭（0.1頭）、寄生株率は56.0%（10.0%）であった。

4. トビイロウンカ

平成25年8月19日付け**病害虫発生予察注意報第1号**による。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（89筆）の結果、食害株率は9.4%（12.1%）、発生圃場率は43.8%（79.8%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（無防除）調査の結果、食害株率は76.0%（23.3%）であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

6. 穂吸汁性カメムシ類

平成25年8月19日付け**病害虫発生予察防除情報第9号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（15筆）の結果、幼虫の寄生株率は1.3%（5.3%）、株当たり虫数は0.0頭（0.7頭）、白変葉発生圃場率は66.7%（56.3%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、幼虫の寄生は認めなかった（寄生株率2.6%、株当たり虫数0.3頭）。

ウ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、平年並で推移している（図）。

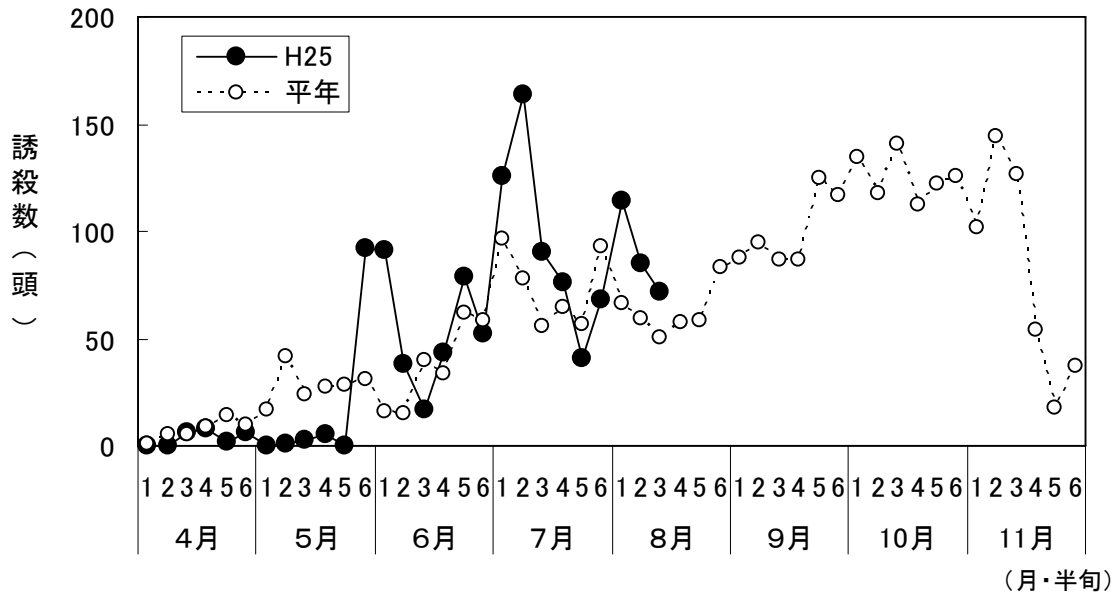


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
 平年:H15~24年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.0%(4.1%)であった。

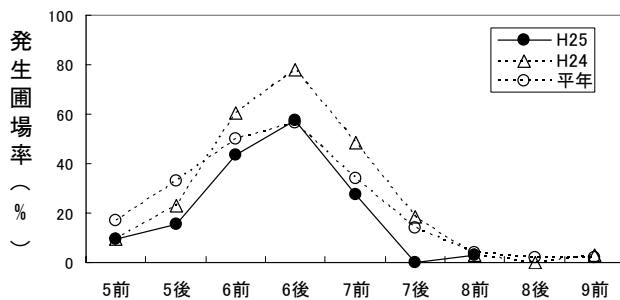


図 うどんこ病 発生圃場率の推移

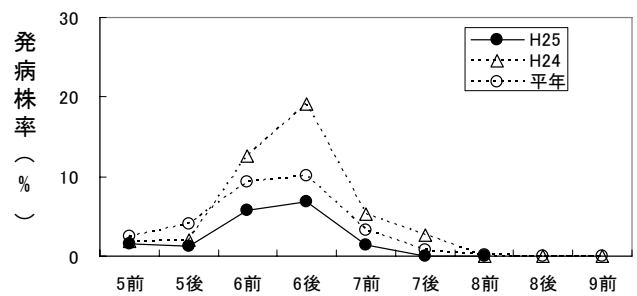


図 うどんこ病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布は、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。
- イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。
- エ 雨よけ育苗をおこなっている場合は、うどんこ病が発生しやすいので注意する。
- オ 夜冷・株冷処理を行なう場合は、入庫前の防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は9.1%(11.4%)であった。

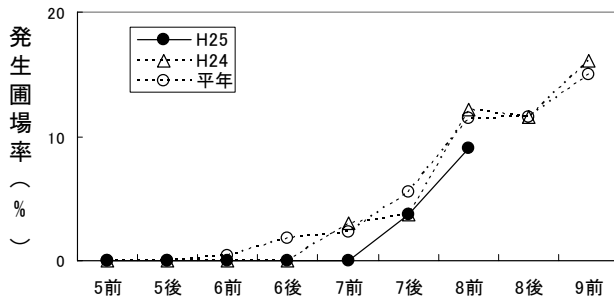


図 炭疽病(G.cingulata) 発生圃場率の推移

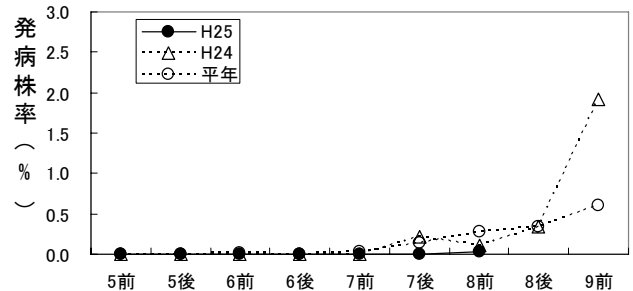


図 炭疽病(G.cingulata) 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分し、本圃へ持込まない。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- イ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に強雨、台風などの前後や下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。
- ウ 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- エ 夜冷・株冷処理を行なう場合は、入庫前の抜き取り及び薬剤防除を徹底する。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は13.7%(9.3%)、発生圃場率は60.6%(45.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 被害葉は伝染源となるため栽培上支障のない範囲で除去する。また、除去した被害葉は圃場周辺に放置しない。
- イ 肥料不足は発病を助長するので留意する。
- ウ 過湿条件は発病を助長するので、密植を避け、通風を良くする。

4. ハダニ類

平成25年8月2日付け病害虫発生予察防除情報第7号を継続。なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は8.8%(3.7%)、発生圃場率は48.5%(28.9%)であった。

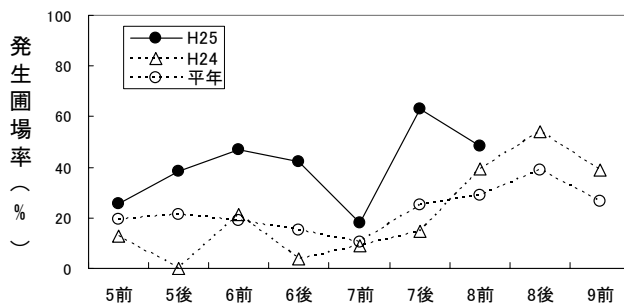


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

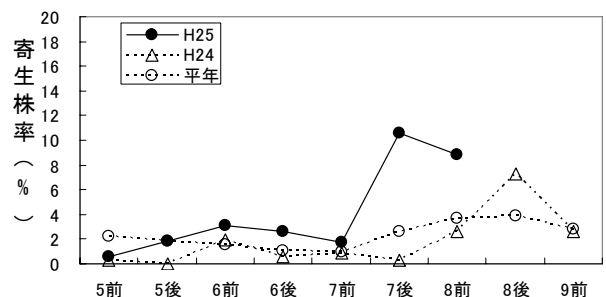


図 ハダニ類 寄生株率の推移

5. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は0.6%(0.6%)、発生圃場率は12.1%(9.5%)であった。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(食害株率1.5%、発生圃場率26.4%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(大豆の項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は20.3頭(過去6カ年平均11.9頭)、発生圃場率は83.3%であった(過去6カ年平均72.2%)。

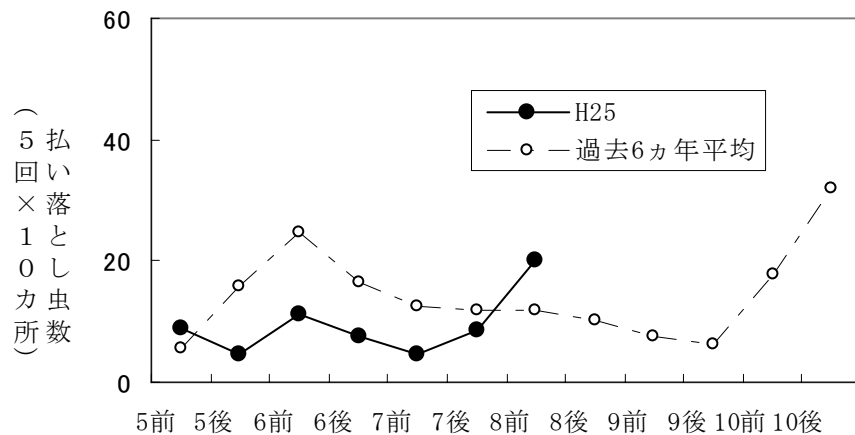


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、葉での発病を認めなかった(発病葉率0.5%、発生圃場率22.4%)。発病果率は0.0%(0.4%)、発生圃場率は5.6%(9.8%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は1.8%(6.2%)、発生圃場率は25.0%(40.3%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は12.3%(13.3%)、発生圃場率は55.6%(57.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性の低下を防ぐため、同一成分の薬剤の使用は年間一回に止め、繰り返し使用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は2.7%(0.7%)、発生圃場率は30.6%(17.6%)であったが、果頂部の被害は認めなかった(被害果率0.7%、発生圃場率12.5%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

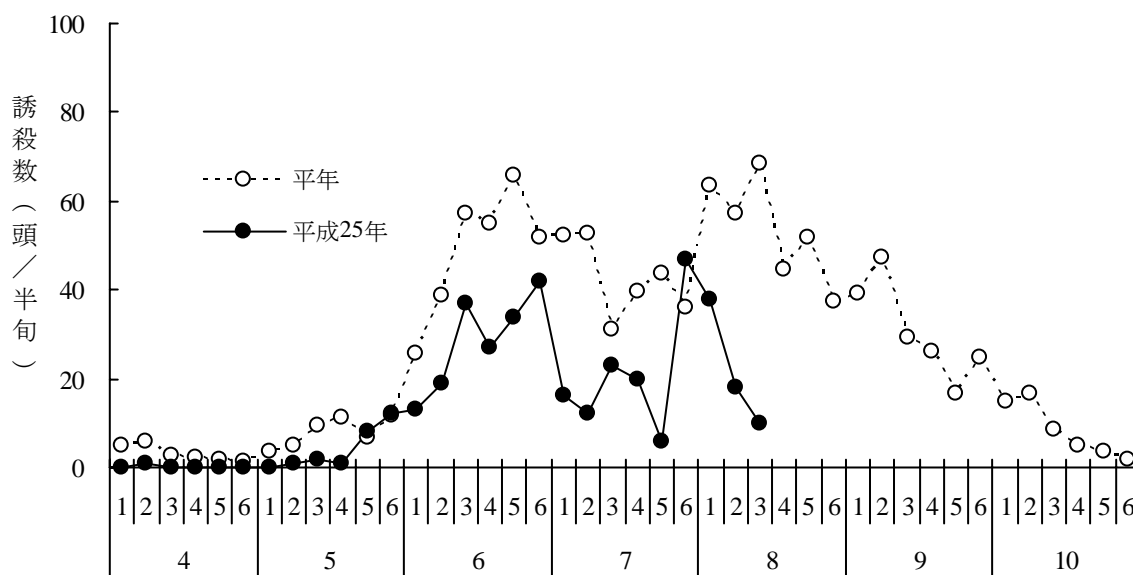


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(月・半月)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い園では、1果当たりの寄生虫数が0.3～0.5頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第6世代	8/17	8/18	8/29	8/19	9/2	8/22
〃 (前年)	8/22	8/21	9/2	8/23	9/6	—
第7世代	9/3	9/5	9/18	9/5	9/24	9/8
〃 (前年)	9/8	9/8	9/23	9/10	9/28	—
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2013年8月15日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.4%(4.8%)発生圃場率は20.0%(51.7%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率8.0%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適と考えられる。

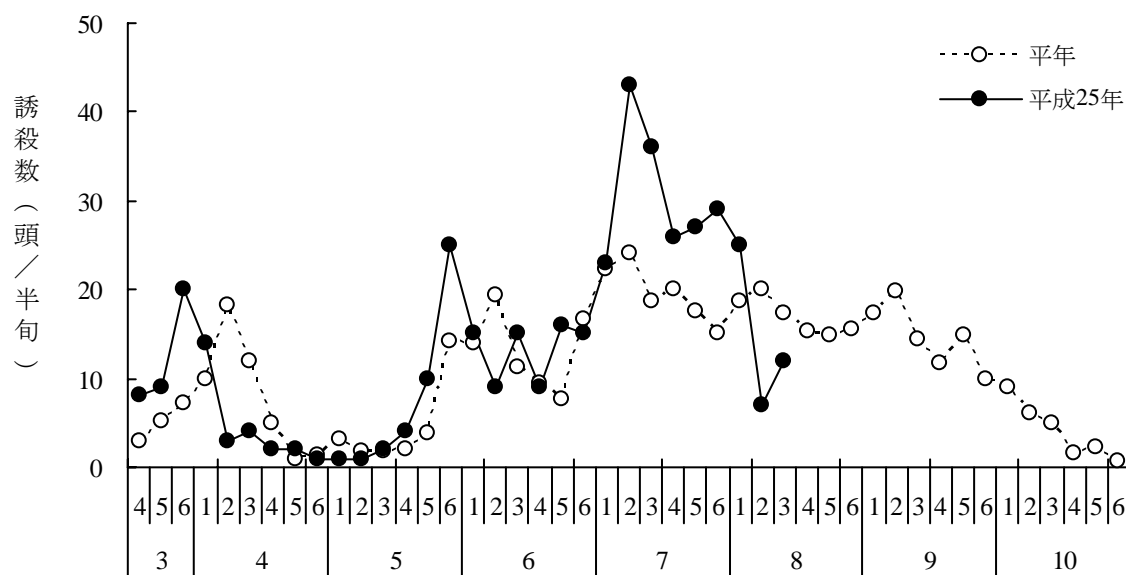


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

(月・半旬)

はやや少なく推移している（図）。

(3) 防除上注意すべき事項

発蛾最盛期から7～10日後に薬剤散布すると効果が高い。

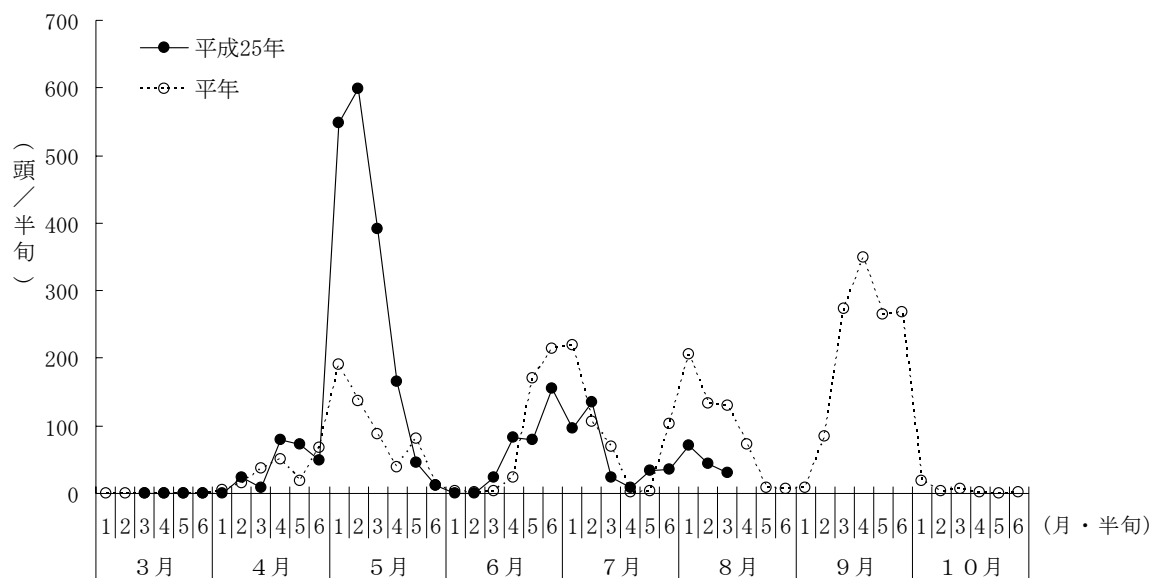


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.7枚（0.1枚）、発生圃場率は10.0%（14.8%）で、一部多発圃場が見られた。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）はやや多く推移している（図）。

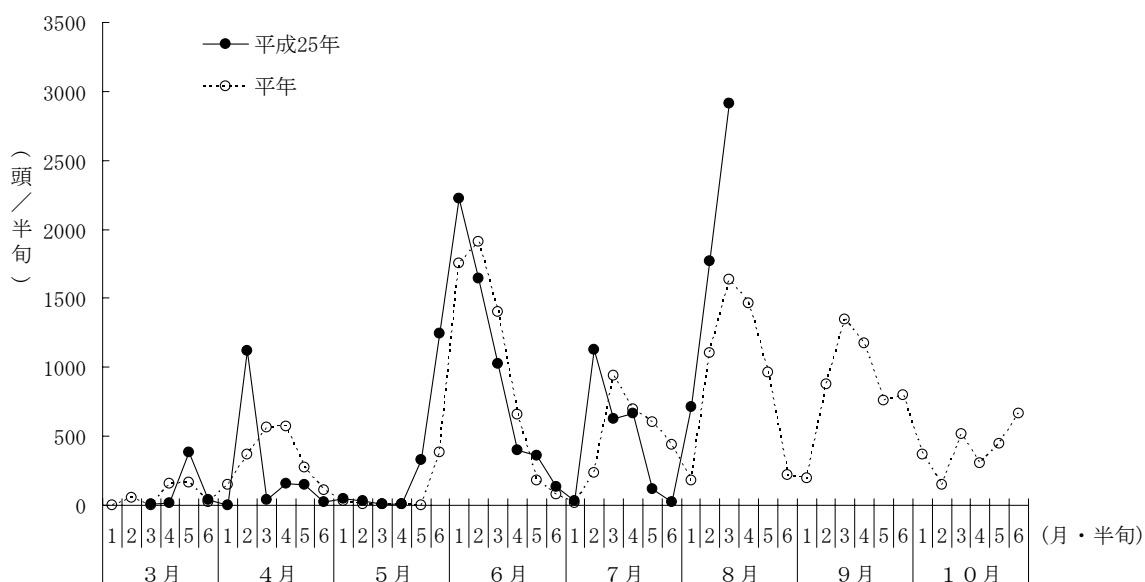


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は1.2%（0.5%）、発

- 生圃場率は25.0%（11.9%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
葉裏にも十分薬液がかかるよう散布する。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は7.5頭（2.4頭）、発生圃場率は45.0%（54.5%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は18.8%（6.4%）、発生圃場率は60.0%（33.0%）であった。

【参考】
気象

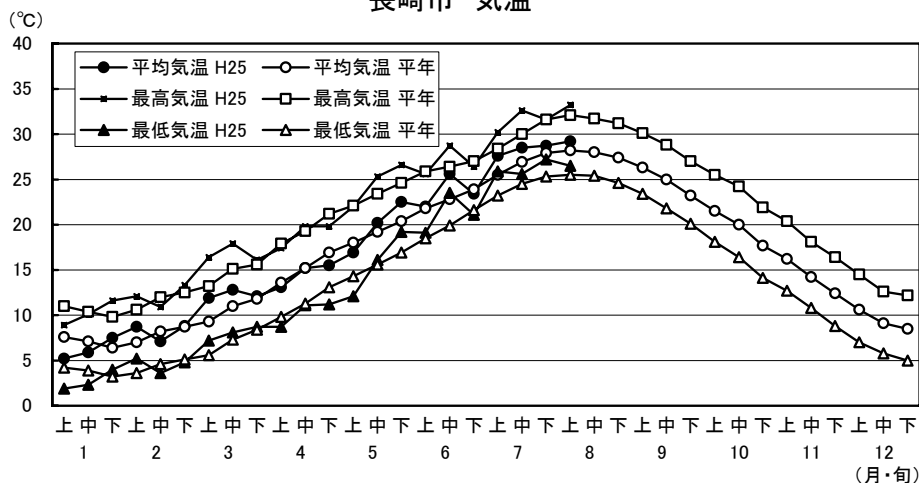
(平成25年8月16日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

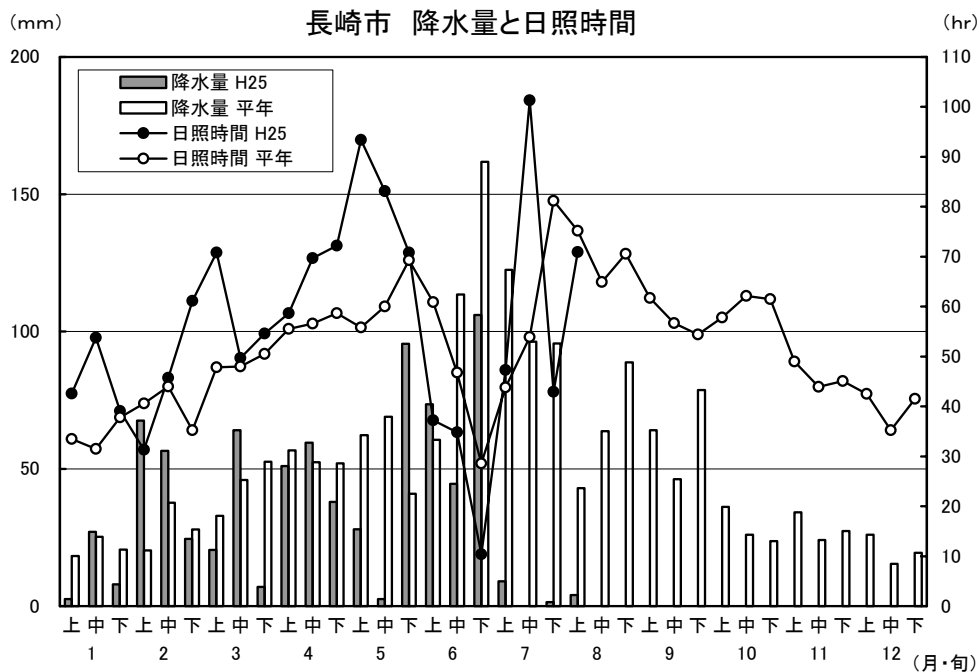
※予報対象地域：九州北部地域

平成25年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



○6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027